

内部監査を機能させる リスク・ベース監査の作り方

一知っているようで出来ていない

リスク・ベース監査の体制整備からリスク評価・監査計画

「内部監査実務マスター・コース」〔第1回開催分（全9会合）〕

- 日 時 ● 2017年9月28日（木）14:00～17:00
- 会 場 ● 東京・麹町 企業研究会『セミナールーム』
- 講 師 ● 藤井 範彰氏 公認会計士・公認内部監査人・米国公認会計士（現在 inactive）
 大手監査法人で20年近く会計監査に従事し、その間、法人内の会計監査アプローチの普及・研修活動や公認会計士協会本部の委員会活動にも専念。その後十余年は、アンダーセン、PwC及びE&Yの監査法人で内部監査、内部統制、リスク管理、不正調査等に特化。新日本監査法人シニアパートナーを2012年に退任後はボルボグループで日本の内部監査統括の経験も経て、現在も同グループ会社UDトラックスの監査役として監査に従事。また藤井範彰公認会計士事務所代表として内部監査等の研修・執筆活動にも従事。著書「内部監査のプロが書く監査報告書の指摘事項と改善提案」2016年同文館出版、「内部監査の課題解決法 20」2012年税務経理協会、論文「内部監査報告書の本質論と実務対応～監査の指摘事項と改善提案をめぐる問題」日本内部監査協会「月刊監査研究」2017年5月号、「海外監査の検討課題～成熟度レベルに応じた問題認識と対応」同2013年11月号、「リスクマネジメントに対する内部監査の対応～最適化シナリオに向けて」同2012年3月号掲載、他多数。

●プログラム●

■講義／ 内部監査を機能させるリスク・ベース監査の作り方 <14:00-16:30>

それでリスク・ベースの監査になっていますか？ リスク・ベースと口では言っても、その仕組みになっていない大企業はたくさんあります。企業不祥事が多数報道される中で、事が起こる前に内部監査としての説明責任を果たす仕組みをどう作るかが話の核心です。リスク・ベースの本当の意味を監査人の責任解除およびアシュアランスというミッションとの関係を踏まえて検討し、個々の内部監査業務の実効性を上げるには、その前工程となる年次の計画作業や体制の構築が極めて重要です。これだけは押さえないといけないポイントを理論と実務の両面から、内部監査の体制づくり、リスク評価、年次計画について解説します。

1. 経営者志向の内部監査のマネジメント —PDCAの構築
2. 年次リスク評価実務と監査計画へのつなぎ方 —リスク・ベースの作り方
3. 監査パターン(経営監査、業務監査等)の多様化と年次計画のグランドデザイン
—準拠性からビジネス志向・組織風土に向かう内部監査

■講義をベースとしたディスカッション&総括コメント <16:30-17:00>

～自由討議・意見交換の中から課題解決のノウハウ、ヒントを探り実践に繋げていただきます～

●参加要領●

●受講料：1名（資料代含む）

正会員	31,320円	一般	34,560円
-----	---------	----	---------

[本体価格 29,000円 本体価格 32,000円]

* 会員企業一覧は以下の当会のホームページにて、ご確認いただけます。http://www.bri.or.jp

申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あて FAX または E-mailにてお送りください。

折り返し、受講票・会場略図・請求書をお送り致します。

※お申込後のキャンセルは原則としてお受けしかねますので、お申込者がご出席頂けない際は、代理の方のご出席をお願い申し上げます。

●申込先（社）企業研究会

担当)居代 E-mail:ishiro@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

TEL 03-5215-3516/FAX 03-5215-0951～2

170188	2017 9/28 内部監査実務マスター・コース		
会社名			
住所	〒		
TEL	FAX		
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			
部課 役職	フリガナ	お名前	
e-mail			

★FAXでお申込の際、「0（ゼロ）発信のFAX機」をご使用の場合は、必ず「0」を押してから、番号入力をお願い致します。（別番号への誤送信にご注意ください。）

※本コースの全体プログラムは、弊会ホームページ「TOP」→「塾・ビジネススクール」→「6. 経営管理」
【内部監査実務マスター・コース】で ご覧いただけます。